

氏 名	岡 田 芳 樹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 5197 号
学位授与の日付	平成 27 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Venous Thromboembolism after Total Hip Arthroplasty Diagnosed by Enhanced Computed Tomography: Comparison of Selective Thromboprophylaxis and No Thromboprophylaxis (造影CTによって診断された人工股関節全置換術後の 静脈血栓症：選択的抗凝固薬使用群と未使用群との比較)
論文審査委員	教授 伊藤 浩 教授 森松 博史 准教授 金廣 有彦

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

人工股関節全置換術（以下，THA）は変形性股関節症において有効な治療法である．しかし，静脈血栓症（以下，VTE）はその解決されない合併症の一つとなっている．初回 THA を施行した 319 例 322 股の患者について，VTE に対する抗凝固薬の効果について調査した．抗凝固薬を全例で使用しなかった時期の症例群 57 例 60 股，その後フォンダパリヌクスを使用した症例群 100 例 100 股，エノキサパリンを使用した症例群 100 例 100 股，低体重もしくは周術期の出血量 600ml 以上と Hb 低値のために選択的に抗凝固薬を使用しなかった選択的未使用群 62 例 62 股の 4 群に分けて調査した．全例術後 7 日目で VTE のスクリーニングの目的で造影 CT を施行した．4 群の VTE の発生率はそれぞれ 15%，9%，6%，6.4%であった．VTE の発生率は抗凝固薬を使用しなかった群よりも抗凝固薬を使用した群および選択的未使用群の方が低かった．VTE の発生率は，抗凝固薬を選択的に未使用の症例群でも低率であり，合併症も考慮すれば抗凝固薬は症例によって選択的に使用されるべきである．

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

深部静脈血栓症と急性肺動脈血栓症に代表される **venous thromboembolism (VTE)**は、特に整形外科領域において周術期の重要な合併症であり、しばしば患者の生命予後に大きな影響を与える。本研究は人工股関節全置換術を施行した患者に対して抗凝固薬の予防的投与の有用性を検討したものである。VTE の頻度は未治療群に比べて抗凝固薬のフォンダパリヌクスとエノキサパリンを使用すると抑制されたが、面白いことに低体重あるいは出血量が多いため抗凝固薬を使用しなかった群でも VTE は低率であった。抗凝固薬の出血性合併症を考慮すると、あえて使用しなくても良い群を見出した知見は重要であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。